

# 矢吹町公共施設等総合管理計画 改定（令和4年4月）の概要について

矢吹町

## 1. 計画見直しの目的と主な改定内容

- ・本計画策定より5年が経過したことによる、計画期間中の中間見直し、中間評価、PDCAサイクルによるもの
- ・数値情報の更新（対象施設数、床面積、経過年数、更新費用等）
- ・これまで（過去5カ年）に行った主な対策の実施状況
- ・町民アンケートの反映
- ・策定した個別施設計画の反映
- ・個別施設計画を踏まえた更新費用の試算とその効果
- ・実施方針と早期に対応すべき課題の更新

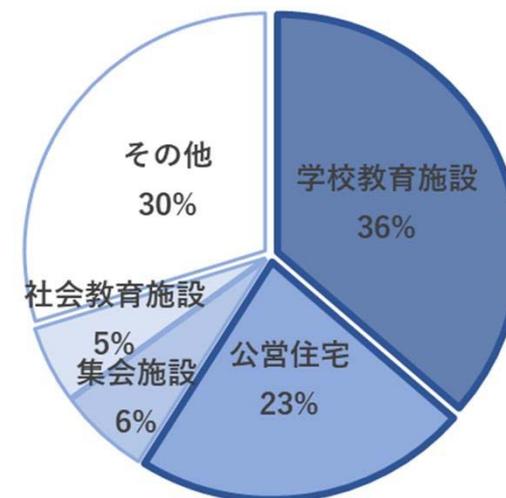
## 2. 現状と課題

### ①施設の保有状況 (P.11~12)

町には、目的に応じて約265の公共施設（庁舎・学校等の施設）が設置されており、その延べ面積は93,751㎡です。

学校と公営住宅で全体の約6割

施設の分類別面積割合



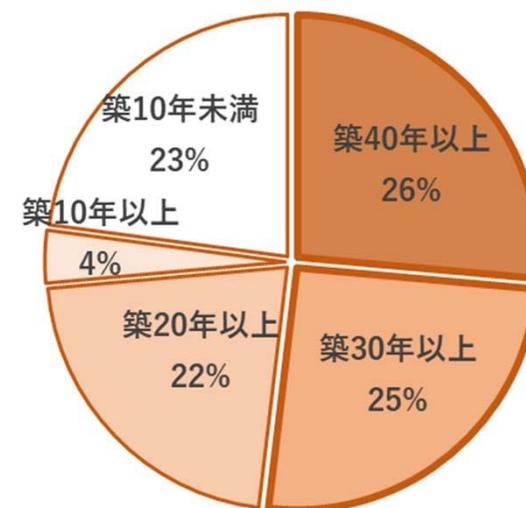
### ②施設の老朽化 (P.13~16)

多くの施設で老朽化が進行しており、早期の対策が必要となっています。

その多くが昭和40年代から平成初期に建設された施設です。

建築後30年を超える施設が  
全体の約5割

施設の年度別面積割合



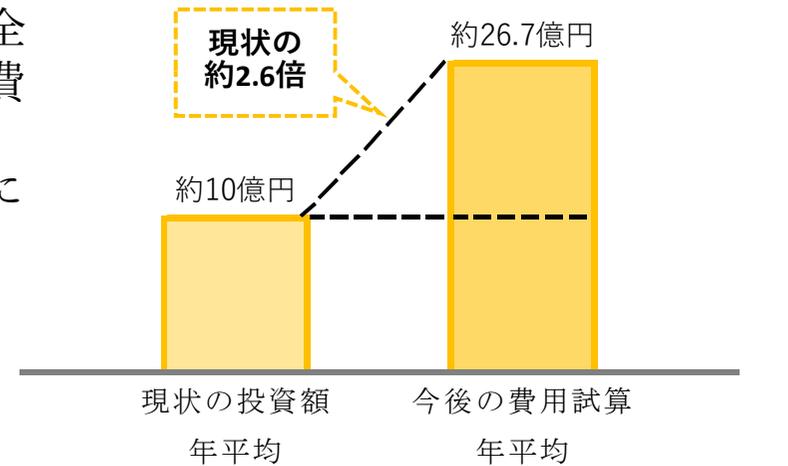
### ③更新費用の試算（P.20~27）

今ある全ての公共施設（道路等のインフラを含む）を安全に運営するため維持、改修、建替していくには、多くの費用が見込まれます。

特に、老朽化が進んだ施設の更新時期が、令和20年以降に重なることから、費用が急激に上昇すると想定されます。

※試算は一般財団法人地域総合整備財団による公共施設等更新費用試算ソフトにより算定しました。

今ある全ての施設を維持、更新するには  
年平均で約26.7億円かかるとの試算

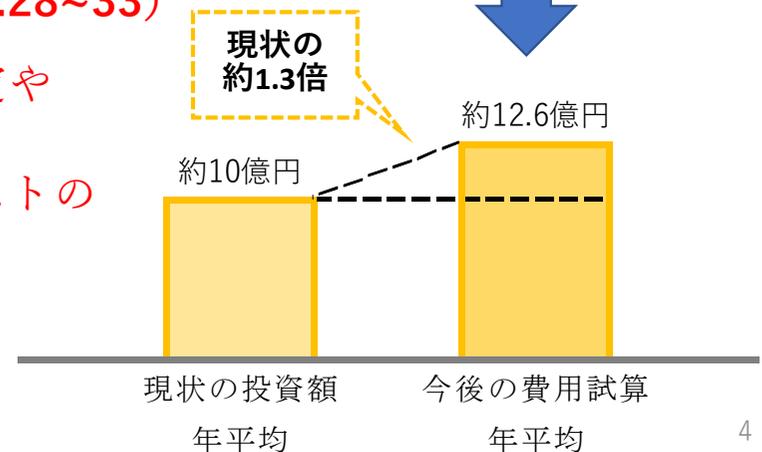


### ④長寿命化計画（個別施設計画）による更新費用の試算（P.28~33）

予防保全型維持管理の考え方を前提とした概算費用の算定や考え方等を示す個別施設計画を策定してきました。

これにより、施設の維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減・平準化を図り、計画的な投資を推進します。

個別施設計画を考慮した場合の更新費用は今後40年間で約504億円、年平均で約12.6億円かかるとの試算



### 3. 公共施設に関する町民アンケート結果 (P.45~53)

・対象者数：3,068名  
・回答者数：1,057名  
・回収率：34.5%

#### ①施設の利用状況について

年に数回以上利用されている施設がある一方で、「利用していない」が6割以上を占める施設もある。利用していない理由は、7～8割が「利用する機会がない」「施設の存在を知らない」との回答である。

#### ②施設の数及び施設状況満足度について

数については7割前後が「適量」との回答。「やや少ない」が多いのは公園、「やや多い」が多いのは公営住宅との回答。施設状況は全ての施設で5割前後が「適切」との回答である。

#### ③今後の施設の整備について

「町民ニーズや人口規模に見合った質・量に見直していくことを考える」が、全ての施設で3割以上の回答である。

#### ④将来の維持管理・運営の取組方針について

長寿命化、複合化、集約化、広域連携、民間活用、廃止等について、それぞれ約5割以上が実施することに肯定的な回答である。

#### ⑤将来見直す施設の優先について

「利用者が少ない（減少している）施設」が最も多く、次いで「建物や設備が老朽化している施設」であり、それぞれ約2割を超える回答である。

#### ⑥情報共有のあり方について

「町のホームページや広報紙への掲載」が約4割と最も多く、次いで「意見公募の実施（パブリックコメント）」が約2割の回答である。

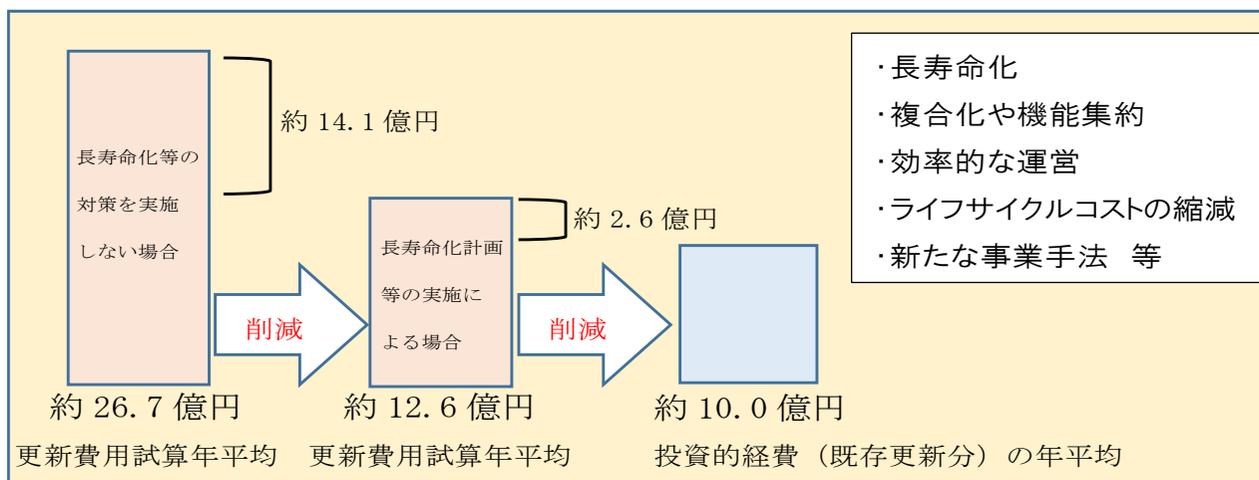
## 4. 公共施設等の管理に関する基本方針

### ①全体方針（P.37~38）

『公共施設等の量・質の見直しを図り、ライフサイクルコスト・施設総量の縮減に取り組む戦略的な施設経営を推進し、町民ニーズに対応した施設サービスの持続的な提供を行う』

全体方針の5つの柱	
①施設の長寿命化	予防保全 計画的修繕 定期的点検診断
②施設の複合化と機能集約	サービスの適正化 施設の複合化・多機能化 広域対応 統廃合
③効率的な運営手法	維持管理の効率化 利用促進 使用料の適正化
④新たな事業手法の活用	公民連携の推進（PPP・PFI）等
⑤取組体制の構築	施設の一元管理 取組の推進体制の構築 個別計画の策定 職員の意識改革

### ②目標



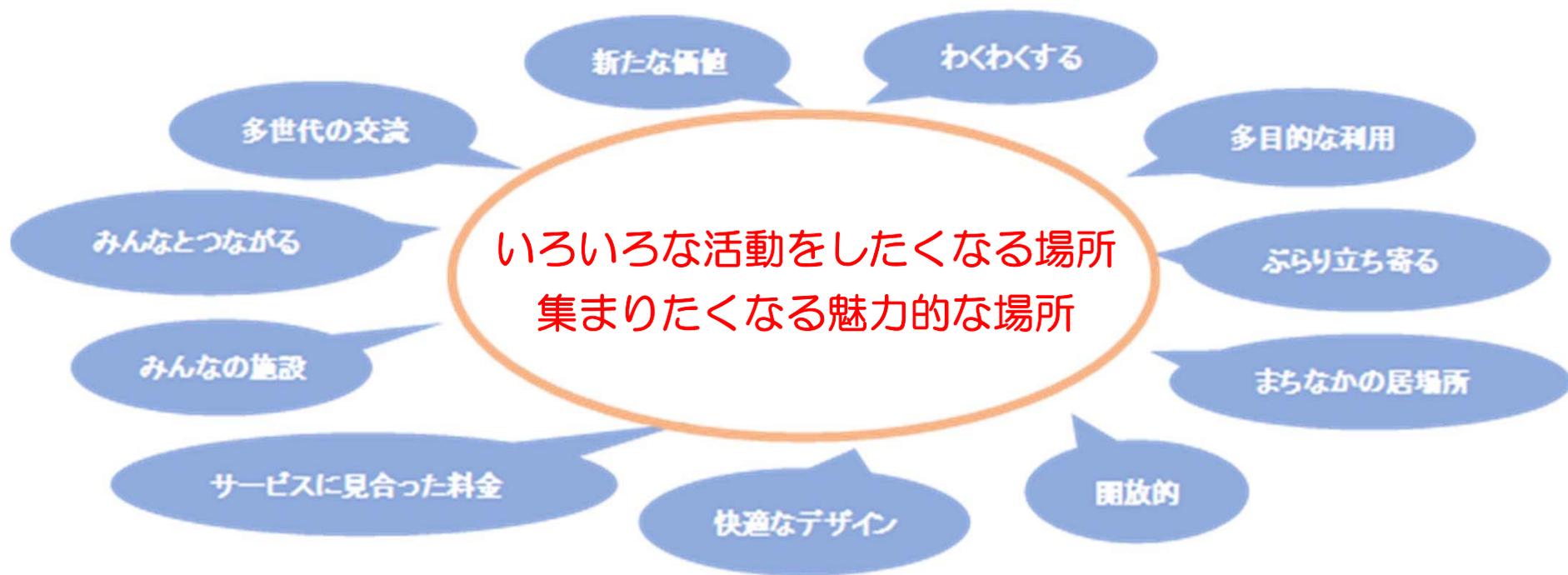
### ③実施方法等 (P.42~43)

- ・ 全庁的な取組体制の構築  
施設情報の一元化、横断的な推進体制、職員研修
- ・ 個別施設計画の見直し  
継続的に計画の実施状況を確認し見直しを行う
- ・ 相互連携体制の構築  
国、県、各市町村による広域的連携等
- ・ 公民連携の推進  
PPP / PFI等の民間ノウハウ、資金活用の検討
- ・ 町民参画  
現状と課題や問題意識の共有、施設情報の公開等により理解と協働を推進
- ・ 計画のフォローアップ  
PDCAサイクルの徹底、検証等による必要な見直し

### ④早期に対応すべき課題 (P.44)

- ・ 個別施設計画の見直しと実施計画への位置づけ
- ・ 公共施設の再編の検討
- ・ 定期的な点検や劣化調査の実施
- ・ 人員体制の確保と横断的組織の構築
- ・ 休止施設の今後のあり方検討
- ・ 財源措置の対応 「矢吹町公共施設等整備基金」への計画的な積み立て

本計画に基づく取り組みの目的は、単に施設を減らすことではありません。未来に目を向けて、将来世代が公共施設を有効に利活用しながら、快適に暮らせる未来をつくるため、新しい形を共に一緒に考えていきます。



公共施設は、みんなが使う施設  
町民と行政が協働で創る場所